

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

|   |                                    |  |
|---|------------------------------------|--|
| <b>事業名</b> 一般国道6号 <small>じょうばん</small> 常磐バイパス   | <b>事業区分</b> 一般国道                   | <b>事業主体</b> 国土交通省<br>東北地方整備局   |
| <b>起終点</b><br>自：福島県いわき市勿来町四沢<br><small>なごそまちしきわ</small><br>至：福島県いわき市平下神谷<br><small>たいらしもかべや</small>   | <b>延長</b> 27.7km                   |  |
| <b>事業概要</b><br>一般国道6号は、東京都から宮城県仙台市に至る約427kmの主要な幹線道路である。<br>常磐バイパスは、福島県いわき市内を通過する延長27.7kmの4車線道路である。  |                                    |  |
| S41年度事業化  | S50年度都市計画決定                        | S43年度用地着手  |
| S44年度工事着手   |                                    |  |
| <b>全体事業費</b> 1,050億円   <b>事業進捗率</b> 95%   <b>供用済延長</b> 20.9km<br><b>計画交通量</b> 29,400台/日   |                                    |  |
| <b>費用対効果分析結果</b>  | <b>B/C</b> (事業全体) 1.5<br>(残事業) 5.8 | <b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体)<br>90億円/2,657億円<br>(事業費: 60億円/2,541億円)<br>(維持管理費: 31億円/116億円)                                     |
|   |                                    | <b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体)<br>522億円/3,991億円<br>(走行時間短縮便益: 472億円/3,498億円)<br>(走行経費減少便益: 15億円/241億円)<br>(交通事故減少便益: 35億円/252億円) |
|   |                                    | <b>基準年</b> 平成26年   |
| <b>感度分析の結果</b><br>【事業全体】 交通量 : B/C=1.8~1.3(交通量 ±10%)<br>事業費 : B/C=1.5~1.5(事業費 ±10%)<br>事業期間 : B/C=1.4~1.6(事業期間±20%)   |                                    |  |
| <b>【残事業】</b> B/C= 7.4~4.4(交通量 ±10%)<br>B/C= 5.4~6.2(事業費 ±10%)<br>B/C= 5.6~5.9(事業期間±20%)   |                                    |  |
| <b>事業の効果等</b><br>①円滑なモビリティの確保<br>・並行区間等の渋滞損失時間：40万人・時間/年、渋滞損失削減率：約8割削減<br>②都市の再生<br>・広域道路整備計画（福島県）に位置づけのある広域道路（交流促進型）を形成する<br>③災害への備え<br>・緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する<br>（いわき勿来IC~いわき四倉IC） |                                    |  |
| <b>関係する地方公共団体等の意見</b><br>○福島県知事の意見<br>国の対応方針（原案）については、異議ありません。<br>なお、東日本大震災からの復興を支援するため、早期完成に努めてください。<br><br>○以下の団体等から、常磐バイパスの整備促進について要望あり<br>・一般国道6号・49号いわき地区改築工事促進期成委員会<br>・福島県浜通り地区国道協議会<br>・いわき市長   |                                    |  |
| <b>事業評価監視委員会の意見</b><br>対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である  |                                    |  |
| <b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b><br>・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない  |                                    |  |
| <b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b><br>・昭和41年に事業化、用地進捗率100%、事業進捗率95%（平成28年3月末時点）   |                                    |  |
| <b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b><br>・事業の進捗に係る問題はない   |                                    |  |
| <b>施設の構造や工法の変更等</b><br>・蛭田川橋、不動橋、菅波大橋において、アルミ合金鋳物製ジョイントの導入  |                                    |  |

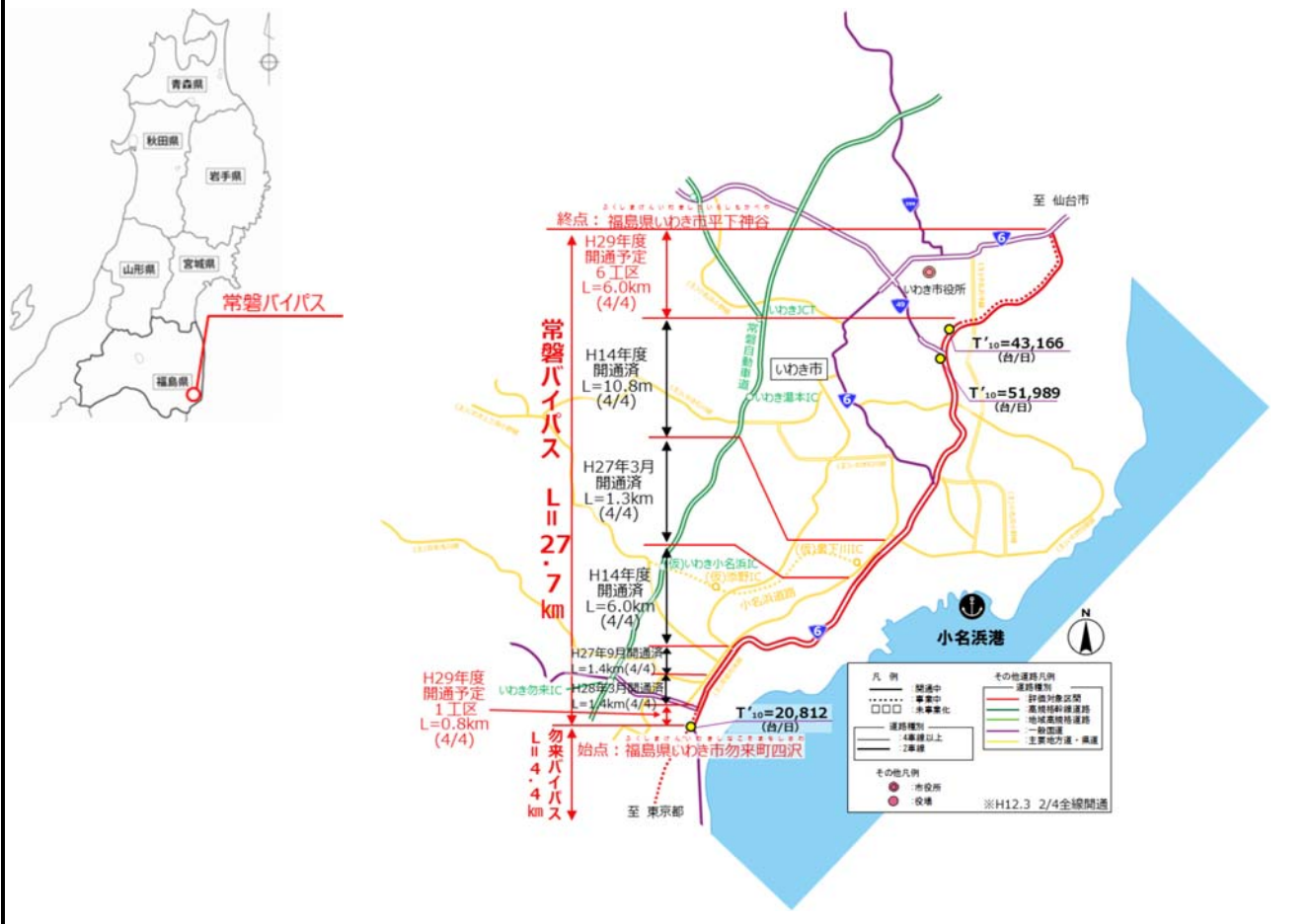
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。